



わだしいすき

第44号 平成25年4月11日発行

発行者：NPO法人和田地域づくり協議会『WAO!』

連絡先：住所 南房総市和田町仁我浦206 和田地域センター内

電話 0470-47-3427

シロナガスクジラ



シロナガスクジラの全身骨格標本の完成式典が、3月27日（水）に行われました。式典には関係者30人が出席し、石井市長が「学術的な価値も高く、地域のランドマークとしても活用が期待される」と式辞を述べました。

その後経過報告に移り、東京海洋大学の加藤教授からなぜ道の駅「和田浦WA・O!」に標本が作られたかの報告と、シロナガスクジラの現状について解説がありました。その内容を一部ご紹介いたします。原骨格はノルウェーで1880年代に捕獲されたもので、そのレプリカは日本で3体しか作られていない（1体は下関市、2体目は太地町）こと、推定の大きさが26mで体重が106tであることなどが紹介されました。また、シロナガスクジラは冬は温暖域で過ごし夏は寒冷域で過ごすなどの生態や、20世紀初頭に捕られすぎて現在は世界中で1500頭ほどしかいない現況について解説がありました。

経過報告の後、主催者・来賓によるテープカットがあり、式典は修了しました。

式典後には駐車場からの入り口が開放され、地域の方々や旅行者の家族づれなどが早速標本に近づき、写真を撮ったり感嘆の声を上げたりしていました。栃木県から来たという家族は「国道を歩いていたら大きな骨が見えたので、何かと思って見に来た」と話していました。その大きさは、相当インパクトがあるようです。観光客が立ち寄り、道の駅がより活況を呈してくれることを期待します。



来賓によるテープカット



子どもも大人も大きさにビックリ

春の写真を募集

前号でお知らせしました、和田地域づくり協議会・生きがい部会が主催する写真展を次の要項により行います。ふるって参加していただきたいと思います。

1. 題材「春」ー春に関するものであれば可（例：桜、花畑、卒業、入学、ハイキング）
 - ・原則として、今年の3月から5月までに和田町内で撮った写真でお願いします
2. 写真の大きさー六切り、ワイド六切り、A4版のいずれか
 - ・印刷して和田地域づくり協議会（和田地域センター内）へお持ちください
 - ・フォトフレームは和田地域づくり協議会で用意します
3. 募集期間ー5月末まで（写真搬入は、いつでも可）
4. 展示期間ー6月初旬より1ヶ月を予定
5. 展示場所ー和田地域センター1階のホールに展示
（写真は展示後に返却いたします）

優秀作品（投票により決定）には、記念品を贈る予定ですので、応募よろしくお願ひします。



春の花畑と和田漁港

ふるさと料理バイキング

3月3日(日)に上三原のくすの木で、「ふるさと料理バイキング」が開かれました。このバイキングは、年に4~5回開かれていて、今回は「早春を味わう」をテーマに行われ、51名が参加してくれました。

料理はテーマにあるように、早春に上三原に芽吹く山菜等を使った料理が並んでいました。具体的には、菜の花の昆布あえ、ノビルのぬた、フキノトウ味噌など20種類を超え、田舎の手作り母ちゃん料理(チラシから)が主でした。

参加者は料理を食べた後、「いいものを食べさせてもらった」「作り方の講習会を開かないの?」などの感想を述べていました。

このバイキングはリピーターが多いのが特長で、約70%にもなるそうです。次回は5月を予定しているの、リピーターとともに多くの方に参加していただきたいとのことです。



どの料理にしようかな

INGミニライブ

3月10日(日)に、SNAP主催(和田地域づくりが後援)によるING(アイエヌジー)のミニコンサートが和田コミセンで行われました。

INGは、館山市在住の遠藤 園さんと高知市在住の江口美香さんの2人によるアマチュアフォークグループです。2人は高校生のころからグループを組んでいたの、久しぶりであっても、少しの練習ですぐに息のあった歌声で歌ってくれました。歌ってくれた曲には、和田小の校歌を作詞した鹿島鳴秋が作詞した「浜千鳥」も含まれていました。

来場してくれた約100人も2人の熱唱に引き込まれるように、耳を澄まして聞いたり手



遠藤さんと江口さん

拍子を打ってリズムをとったりしながら聞いていました。

機会があったら、ぜひまた聞いてくれたらと思います。

和田のボランティア団体

和田地区でボランティア活動に取り組んでいる方々を紹介しています。今号は次の団体です。

上三原地区小域ボランティア

この団体の主な活動は、上三原地区の一人暮らしのお年寄りへ毎月1回配食サービス(毎月第2日曜日)をすることと、一人暮らしのお年寄り宅を訪問しお話しする友愛訪問の2つです。小域ボランティアとして活動が始まったのは平成8年からで(それ以前は小域福祉圏として活動)、まもなく17年になります。この活動が認められ、2月に南房総市社会福祉協議会から表彰されています。

取材に伺ったのは上三原のくすの木で、配食を定時に届けるためあわただしく作業している時でした。そんな忙しい中でも、会員の皆さんは笑顔を絶やさず楽しそうに取り組んでいました。一段落したあと取材すると「みんなで集まって料理をした後、話すことが楽しい」とのことでした。この活動によって、若い方が地域の方々を知ったり、地域の場所を知ったりするよい機会にもなっているそうです。



おまかせしました

献立は会員のみんなで相談し、直売所などで材料を購入するとともに、会員の家庭で採れた野菜やくだものなども持ち寄って作っています。まさに、素材から手作りしている料理もあるわけです。

団体の皆さんに今後のことを尋ねると「若い人が少なくて跡継ぎが心配」とのことです。地域のつながりを深める役割もあるので、ぜひとも残していきたいと話していました。